

図書館とともだち

図書館とともだち・鎌倉 おしらせ No. 227

2024・09・25

しら露もこぼさぬ萩のうねりかな
—芭蕉—

暑い九月は
秋と言うべきか夏と言うべきか…
何十日も続く気温 35 度は
“残暑”と呼べるのか…
七月に入る頃からほぼ毎日
灼熱の太陽と共に暮らす日々でした
それだけに
お彼岸過ぎの高く青い空や涼しい風に
嬉しさ・気持ち良さ一入ですね！

○ CONTENTS ○

	PAGE
☆ 図書館とバリアフリー 2	…1
☆ 「これからの鎌倉の図書館にのぞむ市民の提言」参考資料その3について	…2
☆ 青少年課との面談報告	…3
☆ 湘南邸園文化祭2024お知らせ	…4
☆ 「間島記念館青山学院ミュージアム募金」へ協力しました	
☆ 講演会「陣出と深沢周辺の歴史を探る」のお知らせ	
☆ ひこうせん夏の遠足報告／F☆L お知らせ	…5
☆ 読書会はいかが？／学校図書館を考える会(仮)スタート！	…6
☆ 松坡先生をめぐる人々 20 内田智光・国立正呉 袴田潤一	…7
☆ 映画と本と図書館と 46 / 銀幕情報 田邊恵美	…8
☆ ポラ協報告・協働事業推進部会報告／活動日誌	…9
☆ 事務局から	…10

225号から連載開始の「図書館とバリアフリー」第2回です。
鎌倉市の「子ども読書活動推進計画」のこと、ご存じでしたか？

図書館とバリアフリー②

鎌倉市子ども読書活動推進計画と図書館サービス計画

私の住む市（現在は県内他市在住）の図書館では、昨年4月に『第3次子ども読書活動推進計画』が策定されました。読書バリアフリーに触れている箇所はあるか？と見てみると、〈とりくみ16 子どもたちみんなが使いやすい図書館にしよう〉に「日本語や字が読めない子どもも楽しめる本をおきます」の一文があるのみでした。参考にさせていただこうと、『鎌倉市子ども読書活動推進計画』をのぞいてみると、重点取組事業の1番目に〈読書バリアフリーへの取組〉とあり、「読書バリアフリーについて、広く知ってもらう。マルチメディアデージーなどの録音図書・LLブックのPRと活用」など具体的な取り組みが示されていました。読書をすることに障害がある方に向けてだけでなく、広く知ってもらうことに力を入れている姿勢に、さすが鎌倉市図書館だと感動しました。『第4次鎌倉市図書館サービス計画』でも重点事業の一つに〈図書館を利用しづらい人へのサービスの充実〉が挙げられています。そして、「一人ひとりに合わせた資料の提供とその周知」と、ここでも周知することを大切に考えているのです。人は情報の80～90%を視覚から得ているようで、視覚障害者は情報弱者と言われます。図書館にこのようなサービスがあることも伝わりにくいと思います。ぜひ口コミで広げていただき、必要とされている方に届き、身近な図書館で、文字以外での読書や情報を利用される方が増えると嬉しいです。一方で、プレクストークや

IT 機器を駆使し、自身でサピエ図書館や国会図書館からデータをダウンロードし活用されている方もいらっしゃると思います。そのお一人、この会報の音声版を聞いて下さっている木村さんに、ぜひ次回はお話を伺いたいと思います。お楽しみに！

図書館から少し話がそれますが、鎌倉市 HP には、広報かまくら PDF 版の他に、HTML 版（文字情報）、音訳版（協力：鎌倉朗読・録音奉仕会）、点訳版、手話版が掲載されているのはご存知ですか？

<https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/shisei/kouhou/kamakura/index.html>

これは全国でも先進的な取り組みです。市の一番大切な情報源ともいえる広報をすべての方へという姿勢、さすが鎌倉市です！

（松本陽子）



『第4次鎌倉市図書館サービス計画』、『第4次鎌倉市子ども読書活動推進計画』には、読書バリアフリーのみならず、これからの鎌倉市図書館のサービス計画が詳しく書き込まれています。予定される2つの庁舎内図書館の設計関係者には必ず目を通し参考にしていただきたいと思います。

- ※ 第4次鎌倉市図書館サービス計画 (city.kamakura.kanagawa.jp)
- ※ 第4次鎌倉市子ども読書活動推進計画 (city.kamakura.kanagawa.jp)

* 「図書館とバリアフリー」は、不定期連載でお届けしています。次回もお楽しみに！

NEWS !

『図書館とともだち・鎌倉お知らせ』音声版が、226号から「国立国会図書館みなサーチ」「サピエ図書館」で公開されることになりました！（「みなりサーチ」9/20～、「サピエ図書館」9/25～）

ご利用になれるのは、活字の図書を読むのが難しい方で登録が必要です。

- * 国会図書館みなりサーチ：みなサーチは、目の見えない方・見えにくい方、活字の図書を読むのが難しい方など、様々な障害のある方が、利用しやすい形式の資料を探することができるサービスです。 <https://mina.ndl.go.jp> より
- * サピエ図書館：視覚障害のある人や活字による読書が困難な人に点字図書や録音図書のデータを提供するネットワークシステムです。 全国視覚障害者情報提供施設協会が運営しています。 <https://www.sapie.or.jp/> より



◇「これからの鎌倉の図書館にのぞむ市民の提言」参考資料その3 をご覧ください！◇

新しい図書館を含む新庁舎建設が進められるにあたり、当会では、昨年8月鎌倉市長および鎌倉市教育長宛てに「これからの鎌倉の図書館について(要望)」を参考資料「これからの鎌倉の図書館にのぞむ市民の提言」と共に提出しました(会報 No.221/2023.9)。翌10月に回答を頂き、参考資料が有効に活用されていることが判りましたので、その後も参考資料その2をお届けしました(会報 No.224/2024.3)。

現在、市の本庁舎整備計画は公開プレゼンを終え、基本設計の段階に入ろうとしています。

今号では、さらに精査した参考資料その3(添付資料)をお届けします。担当課には、引き続き関係者各位への配布を要望したいと思います。

青少年課との面談報告—旧鎌倉図書館に対する回答書について—

8月7日(水)福祉センターにおいて旧鎌倉図書館について青少年課と面談をしました。

TOTOMO が提出した要望書(会報 225 号添付「旧鎌倉図書館の一般公開と維持管理について(要望)」)と市からの回答書(会報 226 号添付「旧鎌倉図書館の一般公開と維持管理について(回答)」)に沿って内容を確認しながら話は進められました。

① 説明板について

青少年課から、6月議会で補正予算が通り説明板の設置費が計上され予算が付いたので、現在事業者と話し合い中である。内容についてはアドバイスをくれる先生と相談中。板は金属製でエッチングで彫ったようなものをイメージして見積もりをとっている。設置場所としては道路から見えるところで、旌徳碑の説明板は石碑寄りの小学校側、建物の説明板については同じく消防団の小屋寄りの場所を予定、とのこと。

TOTOMO から、旌徳碑説明板は石碑正面を見ながら読める場所が適切、道路から石碑の背面を見るのではなく前面から見るように石碑まで小道を付けるなどして設置することを検討してほしいと伝えました。

② 公開について

青少年課から、市の方で一般公開を設定することはない。児童福祉施設として子どもの生活の場となっているので、個人情報の観点からも建物内部の一般公開は難しい。外側(外観)については、日にちを決めての公開なら可能(申請が必要)。とにかく関係者以外の自由な出入りや定期的な公開は難しい。

子どもの家の子や保護者向けには、御成ヒストリープロジェクトとして鎌倉を支えてくれた人物、建物などを楽しく学べる会を地域の方に来ていただいて開催したとのこと。

TOTOMO からは一般に向けての学校公開なども行われているので、内部の一部だけでも見せるなど前向きに考えてほしい。せつかくの展示スペースももっと活用してほしい。登録有形文化財になったのだし皆様に見てもらいたいと伝えました。この意見に対しては、学校公開は地域の方の子どもの見守りを前提としている。子どもたちとかかわる建物(建築物)を見に来ることとは違う。気持ちはわかるけど一般公開に対しては検討しますとは言えない。との回答でした。

③ 維持管理計画について

維持管理計画がないと、修繕の際に文化庁からの補助金が出ないなどの懸念もあるので是非、維持管理計画を作成してほしい、と再度お願いしました。

④ 保管している書架などについて

回答書には、改築の時に再利用した階段・床板以外は、今後再利用や保管の計画はないと記されていますが、一時プレハブ施設に保管されていた部材はすべて再利用されたのでしょうか?との TOTOMO からの問いに、プレハブ施設に保管してあったのは再利用できるものであってすべて利用した。との回答でした。三層書庫の部材(組立書架や分厚い床板)は今後の為に保管していたはずと思いますが、とお尋ねしたところ、現物は確認していないが、御成小の旧講堂で保管されているはず、との回答でしたので、確認していただくようお願いしました。ただ管理部署が違うのでと言われました。御成小旧講堂に保管されている部材の公開もお願いしました。また保管場所や今後の保管方法についても考えてほしいことを伝えました。

1時間ちょっとでしたが青少年課との話し合いの時間を持てたことは良かったと思います。

登録有形文化財としての旧図書館をこれからも見守っていきたいと思います。

(水岡)

湘南邸園文化祭 2024 のガイドブックを配布しています！

TOTOMO では、例年「湘南邸園文化祭」のガイドブックを配布しています。

9月から12月にかけて、相模湾沿岸地域一帯の歴史的建造物や庭園が公開されるのですが、その内容や公開日など、貴重情報が満載の美しいガイドブックです。今年もTOTOMOも同文化祭にエントリーし、本年3月に国登録有形文化財として登録された旧鎌倉図書館を

祝う催しを実施します。通りから立派な「旧図書館」や「間島君旌徳碑」が見えますが、ふだんは建物の側面や碑の背側しか見ることができません。今回は敷地内に入り、建物の外観や、寄附者である間島弟彦氏のレリーフと建物の由来が刻まれた碑を正面から見る事ができる貴重な機会になります。秋の一日、旧鎌倉図書館建築に尽力したゆかりの人びとに思いを寄せ、その建築的価値に耳を傾けてみませんか？

湘南邸園文化祭 <http://shonan-teien-festival.org/stf2023>

祝・国登録有形文化財登録 旧鎌倉図書館 見学会&講演会

講師 菅孝能氏（建築家）

時間 10月27日（日）13時～16時

会場 鎌倉市中央図書館 3階多目的室

定員 25名（先着順）参加費 無料

申込 mail:nge35295@nifty.nifty.com（和田）

Tel: 090-4728-5242（鈴木）

主催 図書館とともだち・鎌倉

（間島弟彦・間島愛子夫妻 旌徳の会）

「間島記念館青山学院ミュージアム募金」へ協力しました（ご報告）

旧鎌倉図書館の保存にあたっては、間島弟彦氏が青山学院の出身者であったことから、講演会の講師や資料の閲覧をお願いするなど、青山学院関係者様には数々のご支援をいただきました。

この度、2025年5月完成予定の「間島記念館青山学院ミュージアム募金」へのお呼びかけがありましたので少額ながら当会として協力させて頂くことにしました。

昇天される直前まで、母校と鎌倉の地に、其々ふさわしい図書館を遺すために力をそそいで下さった間島弟彦様、ご遺志を伝えて下さった間島愛子様ご夫妻に、改めて感謝申し上げたいと思います。

講演会のお知らせ

現在、新庁舎の基本設計作業が進んでいます。この深沢地域整備事業の区域内では、昨年7月に土地区画整理事業に伴う陣出遺跡の発掘調査(420㎡)が行われました。その調査結果は鎌倉歴史文化交流館で展示され、研究発表会も実施されました。報告によると、陣出遺跡では、古墳時代から平安時代

の4件の竪穴住居跡が発見され、同時代の土器や陶器の破片等が多数出土していることがわかりました。

今後鎌倉市ではこの遺跡とどのように向き合い、活かしていくのか？「歴史文化都市・鎌倉」に遺るかけがえのない宝物を未来に引き継いでいくために、どのような叡智や配慮が求められるのか？陣出と深沢周辺の歴史を学びながら、ご一緒に考えてみませんか？

陣出と深沢周辺の歴史を探る

講師：古田土俊一氏

（泉谷山浄光明寺 執事／鶴見大学・神奈川大学 非常勤講師）

日時：2024年10月20日（日）14:00-16:00

会場：鎌倉市中央図書館 3階 多目的室

申込：30名（先着順 無料）電子メールまたはFAXで

■メール toshokantomodachi@gmail.com

（図書館とともだち・鎌倉事務局）

■FAX 0467-45-5731（阿曾）

※件名に「講演会申込」、本文に氏名・フリガナ・電話番号をご記入下さい

ひこうせん夏の遠足報告

(8月22日(木) 神奈川近代文学館、オレンジ&レモン文庫)



神奈川近代文学館企画展

8月22日、神奈川近代文学館とメンバーのひとりである荒井さんが主宰されるオレンジ&レモン文庫の展示を見学しました。

神奈川近代文学館で開催中の「没後10年 古田足日のぼうけん」展は、『おしいれのぼうけん』や『ロボット・カミィ』など、ご家族から受贈した原稿や創作メモ、白梅学園に寄贈された旧蔵書など代表作の原画をもとに「古田足日のぼうけん」をたどるもので、子供を取りまく社会問題や平和運動にも取り組まれている姿が印象的でした。

その後文庫に移動し昼食を挟んで「戦争と平和の本」展示を見学しました。展示内容について説明していただき、それぞれ興味のあるものを手に取って拝読。沢山の展示の中、私は特攻隊の方の手記に涙。メンバーの星さんが紙芝居『白旗をかかげて』を読んで下さりまた涙。平和ボケしている今の日本を救ってくれる新しいリーダーの出現を願い終了しました。

私にとって初めての遠足は、沢山の気づきをいただいた大変貴重な経験となりました。ありがとうございました。(石井美紀)



オレンジ&レモン文庫にて



ファンタスティック☆ライブラリー・113のご案内

12月1日(日)・2日(月) 10時～16時

会場：鎌倉市中央図書館

前回と同様、1日(日)は多目的室、おはなしコーナー、展示コーナーで、2日(月)は、休館日を利用し全館で開催します。TOTOMOの企画は次のとおりです。皆様のご来場をお待ちしています。

☆TOTOMO企画☆

- ・パネル展示「旧鎌倉図書館が登録有形文化財になりました」 1階エレベーター前

☆間島弟彦・間島愛子夫妻旌徳の会企画☆

- ・パネル展示「間島弟彦・間島愛子夫妻の寄贈本とゆかりの人々」PART 2
『小林一三・米山梅吉・藤田富子・阪正臣を中心に』 3階ギャラリー
- ・寄贈本の展示 3階ギャラリー

☆おはなしひこうせん企画☆

「クリスマス絵本を楽しもう！」～聞こえてくるよ！シャンシャンシャン クリスマス～

- ・パネル展示、絵本の展示、おはなし会 1階おはなしコーナー
- ・サンタを探せ！ 2日(月)のみ。児童コーナーに隠された折り紙サンタを探す
- ・点字体験 クリスマスカードに点字を書いてみよう おはなしコーナーで随時

☆松坡文庫研究会、かまくら女性史の会、鎌倉の別荘地時代研究会、中央図書館による催しもあります。

読書会はいかが？ ～読書会へのお誘い～



読書するということは、他者の目で見、考えることだと聞いたことがあります。読書会に参加していると、さらにその思いを深くします。同じ本を読んでも、それぞれ感じるものが違うし、心に留まる箇所が違います。これこそが読書会の楽しみではないかと思っています。

TOTOMO の読書会は勉強会ではありません。その内容について議論したり、何らかの共通認識を求めるものでもありません。それぞれ自由に読み、自由に感想を述べます。他の人の意見を否定することはありません。読書会で読む本は、参加者それぞれが推薦した本の中から、読みたい！という声の多いものを2冊程度選びます。隔月開催ですが、期日までに読み切れない、という事態は誰にでもしばしば発生します。読んで参加した方が楽しいのはもちろんですが、他の人たちの意見や感想を聞くだけでも大丈夫。時には、皆の意見を聞いてから読むかどうか決める、とおっしゃる方もあります。私にはこの自由さがとても心地よいです。

自分では選ばない本、気づかない本に出会えるのも読書会の魅力のひとつです。自分ひとりでは読破できる自信がない本や受け止めきれない本に取り組むチャンスにもなります。他の方から提案されなければ読まなかった本や、そうして読んでみて、出会えた幸せを得られた本もたくさんあります。

今年5月に読んだ『青い壺』（有吉佐和子著 文藝春秋）も、読書会のテーマになったことで読んだ本のひとつです。有吉作品といえば『複合汚染』や『恍惚の人』など社会派小説のイメージが強く、これまで手に取ったことがありませんでした。恐る恐る読み始めたのですが、話の運びの巧みさや、時に辛辣でありながらユーモアを感じさせる人物描写に驚かされました。漠然と感じたことを言葉にするのは難しいのですが、そうすることで、ひとりで読むよりも深い読書ができたように思えます。

今月27日（金）の読書会では、『百年の子』（古内一絵著 小学館）と『献灯使』（多和田葉子著 講談社）を読みます。『百年の子』は学習誌百周年を軸として紡ぎだされる物語です。後半には誰もが知る漫画家のエピソードなども盛り込まれていて楽しいのですが、戦時中の人々の苦悩や、戦後を生きる私たちがそれをどう捉えるのかも考えさせられます。『献灯使』はさらに手強い作品です。表題作のほかに4つの短編が収められていますが、どう捉えたら良いのかわからないところばかりで、他の方々の感想が今から楽しみです。

読書会にはどなたでもご参加いただけます。会員以外の方の見学も歓迎しています。開催予定は会報最終ページでご案内していますので、どうぞふらりとお出かけください。これまでに読んできた本のリストは、当会 HP に掲載していますので、ご参照ください。 （黒瀬）

[読書会の記録 | 図書館とともだち・鎌倉 \(totomo.sakura.ne.jp\)](http://totomo.sakura.ne.jp)

◆◆◆◆学校図書館を考える会（仮）スタート！◆◆◆◆

9月18日（水）午後、現役为学校司書を含む8人が集い、学校図書館について語り合いました。

今、学校図書館はどのような状況になっているのか、課題は何か、改善のために私たちができることは何かなどを考えるためにまずは場を作ろう、との思いで動き始めました。

鎌倉市立小中学校は現在、1校1人の学校司書が配置されていますが、勤務日数（時間数）や学校から期待される役割や待遇など、多くの課題があります。現状を把握することから始め、実りある活動にしていきたいと考えています。次回は10月16日（水）13:00～NPOセンター鎌倉で行います。

この連載で既に取り上げたように松坡先生は片野玄貞や島田日雅など日蓮宗の僧侶、菅原東丘や釈宗演など臨済宗の僧侶と親しく交際しましたが、寿福寺の内田智光、建長寺（正統院）の国立正呉とも漢詩を通じて親しくしていました。二人はまた鎌倉同人会の会員でもありました。

松坡先生が主宰していた漢詩会「松社」は月に一度の詩会（雅集、清集）を開いていました。寿福寺が会場として使われたこともあります。昭和10（1935）年春に寿福寺で行われた例会の折に松坡先生が詠じた七言律詩があります。タイトルは「禪房清集 分韻」。分韻とは参会者が籤を引くなどして韻字を割り当てられ、その韻字を使って詩を詠じることです。

壽福禪關竹樹扉 黄鶯聲滑與春宜（寿福禪関竹樹の扉、黄鶯声滑らかにして 春と宜し）

と、寿福寺の竹まいと春の趣が詠い起こされています。第5句、第6句には内田智光のことも詠み込まれています。

當日開山傳茗種 如今居士撚霜髭（当日の開山 茗種を伝え、如今の居士 霜髭を撚る）とあります。嘗て、開山の栄西禅師は茶の種を伝えたが、現在の居士は白いものが混じった口髭を撚っている、というのです。「撚髭」は詩句を考えていることを示すのによく使われる表現です。内田智光も当日の詩会に加わっていたのかも知れません。この律詩は後に「乙亥春晚禪房清集分韻作録似壽福寺上人（乙亥春晚、禪房清集での分韻の作。録して寿福寺上人に似す）」との為書きが添えられて軸に仕立てられ、現在も寿福寺にあるようです（筆者未見）。

更に、松坡先生の晩年、寿福寺を会場にして漢詩講読会が開かれていました。昭和11（1936）年頃、建長寺正統院の国立正呉が内田智光に漢詩の勉強をしないかと提案しました。講師が必要だろうということで松坡先生に指導を依頼したところ、松坡先生は快諾され、会を「晩翠会」として発足しました。会員は国立正呉、内田智光を始め10名ば

かりで、松社同人の参加もあったようです。当初は即題（その場で題を与えられて漢詩を詠む）でしたが、『清詩評注読本』をテキストにしての講義が行われるようになりました。講義に使われた教材があ



『田邊松坡先生講本』表紙

ります。第一輯から第九輯までをまとめて和綴じにし、表紙を付した冊子で、タイトルに『田邊松坡先生講本』、清代の漢詩人が列挙されています。本文は表紙に書かれた詩人の作品のアンソロジーで、詳細な鉛筆書きのメモがびっしりと余白を埋め、「晩翠會」の印が二箇所捺されています。メモはこの『講本』の旧蔵者が松坡先生の講義を書き取ったものでしょう。松坡先生の講義の息使いが感じられるようです。晩翠会の講義は松坡先生の高齢化により昭和15（1940）年頃には終了したそうです。

寿福寺総門脇の「源実朝をしのぶ」碑（鎌倉同人会 1992）の碑陰に七言絶句が刻まれ、「亀谷山壽福寺閑栖智光題」とあります。後に、内田智光はこの詩の一部について詩の推敲法からすれば失当であったことを認め、「一箇所の失敗はそのものが長持ちするとも聞いているので、山僧は格別気にしない。…呵々大笑」と語っています。

寿福寺の墓所の最も奥まったところに、松坡先生と奥様の鉄さん、早世した長女三千さんは眠っています。



第46回 『映画と本と図書館と』

『ルックバック』

(2024年・日本 制作／ 監督：押山清高)

原作：藤本タツキ

配給：エイバックス・ピクチャーズ

「かまくら銀幕上映会」ナビゲーター 田邊恵美

『今の日本のアニメを、これで知る！』

図書館でリクエスト中の原作漫画、まだ順番が回って来ないので未読。が、最初の数ページがweb上で見られる。原作ファンの多くが映画化も好きだと言うのが頷ける。

本編、なんと1時間を切る短さ。でも、これだけで上映。その代わりなのかロードショー料金は1,700円均一！（今のロードショーは大人2,000円。）均一という事は学生料金もシニア割引もサービスデーも、一切無い。ある意味強気な設定とも言えるが、原稿執筆時も上映館は全国でかなりの数。もし間に合えば、映画館へ是非。

最初の舞台は小さな街。原作者の故郷、秋田県にかほ市。鎌倉の6倍ほどのサイズの街に約2万人が暮らすので、背景がどーん、と山とか田んぼなのは、手抜きではなく、実際そうなのだろう。（にかほの人口密度は89.8人/km²、鎌倉は4,303人/km²！）

そんな小さな規模の自治体でも、図書館はちゃんとあった。将来、売れっ子漫画家になる主演の藤野、とにかくひたすら、描く、描く、描く。絵を描く為の資料もどんどん探す。首都圏の街のように、若い女子がこもっていいカフェが沢山あるとは思えないが、図書館は身近にあった。運がいい。

映画を見ながら、「もし、この藤野ちゃんの生活テリトリーの中に図書館が無かったら、彼女の創作に何らかの影響があったかもしれない」ふと、思った。

映画の何に一番心が響くかは、人それぞれ。新たな『あなたの名作』に、これから出会うかもしれません！

かまくら銀幕上映会のお知らせ（主催：ドリーム・アーツ（03-5969-8081） 於：鎌倉芸術館小ホール

9/30（月）『枯れ葉』

10/10（木）『コットンテール』

10/24（木）『RED SHOES/レッドシューズ』

11/7（木）『PERFECT DAYS』

11/21（木）『ジャンヌ・デュ・バリー 国王最期の愛人』

◎映画上映：前売り券 1000円（シニア、当日券 1300円） ◎上映時間 ①11:00～ ②14:00～

☆上映スケジュールの確認は、鎌倉芸術館（0467-48-5500）へ

☆受付で「田邊さんから聞いた」とおっしゃっていただければ、前売り料金でご覧いただけます。





秋は、読書や図書館関連のイベントが次々、開催されます。是非、ご参加ください。
ファンタスティック☆ライブラリー・113は、12月1日、2日に開催予定です!

おはなしひこうせん勉強会

日 時：10月17日(木) 13時～15時 場 所：NPOセンター大船
テーマ：「走る」人も動物も乗り物も・・・走るをテーマに絵本や紙芝居をご紹介します。
折り紙講習会(講師：多篤子さん) 11月は、クリスマスの折り紙を習う予定です。
日 時：11月21日(木) 10時～12時 場 所：野の花ホール
お問い合わせは、黒瀬(Tel/Fax 0467-22-8545)まで。

読書会

日 時：9月27日(金) 11時～12時半 場 所：NPOセンター鎌倉
テーマ本：多和田葉子著『献灯使』(講談社文庫)、古内一絵著『百年の子』(小学館)
※水分補給のためのお飲み物は各自ご持参ください。皆様のご参加お待ちしております。
お問い合わせは、杉崎(Tel/Fax 0467-41-4956)まで。

間島弟彦・間島愛子夫妻 旌徳の会

日 時：10月2日(水) 13時半～16時半 場 所：NPOセンター鎌倉
お問い合わせは、鈴木(Tel 090-4728-5242)まで。

学校図書館を考える会(仮称)

日 時：10月16日(水) 13時～15時 場 所：NPOセンター鎌倉
お問い合わせは、黒瀬(Tel/Fax 0467-22-8545)まで。

講演会：陣出と深沢周辺の歴史を探る

日 時：10月20日(日) 14時～16時 会 場：鎌倉市中央図書館3階多目的室
講 師：古田土俊一氏(泉谷山浄光明寺 執事/鶴見大学・神奈川大学 非常勤講師)
※申し込み方法等、詳細は4ページのご案内をご参照下さい。
お問い合わせは、阿曾(Tel/Fax 0467-45-5731)まで。

19th 湘南邸園文化祭2024(9/8~12/8)

<TOTOMO企画>祝・国登録有形文化財登録 旧鎌倉図書館 見学会&講演会
日 時：10月27日(日) 13時～16時 会 場：鎌倉市中央図書館3階多目的室
講 師：菅孝能氏(建築家) ※詳細は4ページのご案内及びガイドブックをご参照ください。
お問い合わせは、鈴木(Tel 090-4728-5242)まで。

☆図書館友の会全国連絡会

11月30日～12月1日、長崎県で全国図書館大会が開かれます。図友連は『私たちの図書館宣言』から考える
「図書館の課題」をテーマに第15分科会を主催します。
お問い合わせは、阿曾(Tel/Fax: 0467-45-5731)まで。

編集後記 * * * * *

☆猛暑の夏は、外を歩くことは諦め、涼しい美術館で絵本の原画展を楽しみました。それにしても
暑い暑い夏でした。秋に疲れが出ぬよう気をつけて過ごそうと思います。(A.S)
☆暑さ寒さも彼岸まで…とはよく言ったもの。秋分の日雨の後、少しずつですが秋の気配が感じ
られるようになってきました。短い秋を楽しむのはこれから? (M.S)



題字・巻末カット：小島寅雄 2024年9月25日発行
図書館とともだち・鎌倉(代表：水岡やす子) 編集：阿曾・黒瀬・杉崎・斉木
事務局：〒248-0005 鎌倉市雪ノ下1-14-34(黒瀬) TEL/FAX 0467-22-8545
HP：<https://totomo.sakura.ne.jp> E-mail:toshokantomodachi@gmail.com

